

牧野審判委員長からのメッセージ

～苦しい時を乗り越えて～

== ハーフ タイム ==

東京 F A 審判委員会
第 5 5 号 (2020 年 5 月)



日頃より当協会の審判活動にご尽力ご協力を賜り誠にありがとうございます。

3月24日、今夏に開催が予定されていた東京オリンピック・パラリンピックが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて1年延期となりました。4月8日には7都道府県に緊急事態宣言が出され不要不急の外出の自粛要請が出されました。その後の4月16日には全国に緊急事態宣言が出されることとなっています。国内での感染者数も1万3千人に到達する勢いの中、全国の死者も3百人を超えてしまいました。新型コロナウイルスの感染爆発が懸念される東京都では予断の許さない状況が続き、新型コロナウイルス感染症の問題は皆さまの生活にも直接大きな影響を及ぼしており、先が見えない不安そして難しい状況におかれていることと思います。少しでも早く普通の日常生活が送れるようになることや東京都の各種連盟の

主催大会が早く再開されることを願い、接触8割減の行動をお願いいたします。①ビデオ通話でのオンライン帰省、②スーパーは1人または少人数ですいている時間に、③ジョギングは少人数で公園はすいた時間、場所を選ぶ、④待てる買い物は通販で、⑤飲み会はオンラインで、⑥診療は遠隔診療、⑦筋トレやヨガは自宅で動画を活用、⑧飲食は持ち帰り、宅配も、⑨仕事は在宅勤務、⑩会話はマスクを着けての行動を是非とも実践していただきたいと思います。

2016年4月より公益財団法人日本サッカー協会審判委員長を務めてきた小川佳実氏が退任されました。小川委員長は退任の挨拶の中で次のような言葉を残されましたので紹介いたします。『皆さん、「自立した魅力ある審判員であるため」に向けて、審判員として、また審判指導者として、次の言葉を少しでも覚えていて頂けたら嬉しく思います。

“Keep Looking. Don’ t Settle (探し続けなさい。落ち着いてしまっはいけない。)” by Steve Jobs 』

3月29日の日本サッカー協会評議委員会で新しく審判委員会委員長として、黛俊行氏が選任されました。委員長に就任しました黛委員長の就任挨拶を紹介いたします。「皆様には平素から本協会の事業に対して格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、去る3月29日JFA評議委員会に置きまして理事職に選任され、審判委員会委員長を拝命することになりました。ここに謹んでご挨拶を申し上げます。この大任をお受けした以上、誠心誠意、日本サッカー発展のため職務に尽力いたす覚悟です。日本サッカー協会並びに審判委員会は皆様のご理解とご協力により大きく発展をしております。今後のさらなる発展に関しても皆様のご指導がなくして明るい未来はありません。何卒、小川前委員長同様、格別のご指導をよろしくお願い申し上げます。」

日本のトップである審判委員長が替わりましたが、日本のサッカーの発展を審判員・審判指導者という立場で支えることに変わりはないと思います。東京都サッカー協会登録の審判インストラクター、フットサル登録審判インストラクター、東京都サッカー協会登録審判員の皆様におかれましては、サッカーが再開されたときには各自の立場における職務に尽力していただければと思います。よろしく願いいたします。

日々、新型コロナウイルス感染症について好転の兆しが見えない報道がなされる中、皆さまも不安が続き、不便な生活を強いられているのではないかと推察いたします。このような中でも、東京都サッカー協会の各種連盟の試合を支えて頂いている審判員・審判指導者の皆さまが、各大会・リーグの再開および研修会・講習会に向けて準備に励まれていることに改めて感謝申し上げます。皆さまが、フィールド・ピッチ上、研修室に安心して戻られるまでには、もう少し時間が必要ですが、その時に向けて万全を期するために、皆さまご自身の生活、家庭、仕事、そして「心身ともに健康」であることは最優先していただければと思います。

私たちには、サッカーをする人、見る人、支える人といった、サッカーというスポーツを介した多くの仲間があり、今までに幾度か難しい状況をとともに手を携えて乗り越えてきた経験があります。この難しい状況下であっても、互いの叡智を出し合いながら難しい時間を耐え、切り抜け、そして平常で、普通な生活を取り戻すことが必ずできると信じています。

■サッカー2級審判員昇級者の紹介

2019年度秋の関東2級昇級審査が行われ、新たに7名の2級審判員の皆様が誕生しました。

合格された皆様の喜びの声をお届けします。



(左下から川村氏、佐藤氏、山口氏、左上から竹内氏、神内氏、藤本氏、渡邊氏)

●2級審判員 神内 秀泰 氏

この度、2019年度秋に昇級させていただきました神内秀泰と申します。審判員として1歩前進できたことを嬉しく思います。これも皆様からのご指導の賜物であり、特に審判活動をサポートしてくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

2級審判員になったとはいえ自分のスキルが急に上がった訳ではないため、日々の努力を惜しまずこれからも精進していくつもりです。今後は審判員として自分を今まで以上に成長させつつ、自身を育ててくれた東京都と地域協会に少しでも貢献できればと思っています。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

●2級審判員 川村 航希 氏

この度、S2級に昇級させていただきました川村航希です。協会の皆様をはじめ、インストラクターの皆様や同じ審判員の先輩方や同年代の方々など多くの方々の支えがあって今の自分があると思っています。心より感謝申し上げます。高校になってサッカーにかかわり始めた私ですが、今ではサッカーという素晴らしい競技に関わっていることに大きな喜びを感じています。ワッペンの色は変わりましたが、この純粋な気持ちを忘れず、選手のためのいいレフェリングを追及していきたいと思っています。

お世話になっている東京都サッカー協会に少しでも恩返しができるよう、これまで以上に責任感を持って活動していきたいと思っています。

●2級審判員 佐藤 元 氏

昭和に生まれ、思春期に平成に変わり、そして令和。時の流れというのはこんなにも早いものかと気付かされます。そんな折、令和元年度秋に昇級させていただきました佐藤元と申します。昇級することができたのは、私をこの世界に導いてくださった方、沢山の審判仲間・選手やスタッフ、ご指導いただいた方々や家族の理解・協力などのおかげです。

これからも、昇級したことに満足せず、2級審判員としての「責任」と「自覚」をもち、日々研鑽に努め精進してまいります。また、おこがましいですが後進の指導のことも念頭に入れつつ、まずは一歩ずつ、一歩ずつ…。引き続き宜しく願い申し上げます。

●2級審判員 竹内 聖子 氏

2019年度秋にS2級に昇級させて戴きました竹内聖子と申します。真新しいシルバーのワッペンを手にした時は、嬉しさと共に、その責任の重さに身が引き締まる思いがしました。家族をはじめ、ここに至るまで私を支え、関わって下さった全ての皆さまに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

まだまだ至らない点多々あるかと存じますが、これからも好きの力を信じて、1試合1試合大事に、愛される審判を目指して日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

●2級審判員 藤本 和 氏

2019年度秋に2級審判員に昇級させて頂きました、藤本和です。審判活動を始めたのは大学に入学してからです。その頃はまさか自分が2級審判員になれるとは夢にも思っていませんでした。今回私が昇級できたのは今までご指導して下さいました審判委員会の皆様、インストラクターの皆様、諸先輩方、アカデミーの仲間たちのおかげです。しかし、これはゴールではなく、私の目標の通過点のひとつです。これからは2級審判員としての立場や責任を理解し、選手の皆さんが最大限の力を発揮できるようなレフェリングをするために切磋琢磨していきます。まだまだ未熟者ではありますが、これからは審判の技術だけでなく、人間力も磨いていきたいと思っておりますので、今までと変わらぬご指導、宜しくお願い致します。

●2級審判員 山口 敦 氏

2019年秋サッカー2級審判員に昇級させて頂きました山口敦と申します。アクティブ審判員として活動させて頂き、ご指導して下さいましたアセッサーの皆様、協会の皆様、そして審判仲間の皆様のおかげで昇級できたことに感謝いたします。これから2級審判員としての自覚をしっかりと持ち、より良いパフォーマンスで魅力ある楽しいサッカーのサポートができるよう精進していきたいと思っております。どこかで見かけたらご指導含め、気軽にお声掛けよろしくお願い致します。

●2級審判員 渡邊 恵太 氏

この度、2019年度秋に2級審判員に昇級させて頂きました、渡邊恵太です。審判員を始めた頃は2級審判員の壁は高く、到底私には届かないものだと思っていました。そんな私をこれまで指導してくださり支えてくださった審判委員会の皆様方、上級レフェリーの方々、また共に切磋琢磨してきた東京都アカデミーや同年代のレフェリー仲間のおかげで昇級できたと思っております。この場を借りて感謝申し上げます。2級審判員となり、より厳しい環境に身を置くこととなりますが、自覚と誇りを胸に、これからも「選手の為」のレフェリングを心がけ、審判技術の向上に力を注いでいきたいと思っております。

■JFA第43回全日本U-12サッカー選手権大会指導者研修会に参加して

(サッカー2級審判インストラクター 渡邊 晶子氏)

2019年12月24日からの6日間、私は「非日常」に身を置いていた。思いがけないチャンスを得、鹿児島で開催された「JFA第43回全日本U-12サッカー選手権大会」に地域インストラクターとして参加したのである。

本大会はいわゆる”全少”と称され、Jリーグ等で活躍する選手も輩出した伝統ある大会で、2015年から舞台を鹿児島に移したが、期間中に桜島が噴火したのは5年目にして初めてだと言う。

その鹿児島に全国から集結した審判団は、31名の

ユース審判員、18名の地域インストラクター、JFAインストラクター、JFAおよび鹿児島県協会スタッフで構成され、大会前からWEB会議による大会目標や各役割の確認、事前課題などの綿密なプログラムにより、「大会の成功」のためにあらゆる準備で臨んだ。

初日は審判員のプラクティカルトレーニングも行われ、指導者もデモンストレーターを務め共に汗を流した。大会中はユース審判員4名に対し指導者2名のチーム行動が行われ、審判員は「出し切る」、指導者は「引き出す」というテーマを掲げ取り組み、審判員の最高のパフォーマンスを「引き出す」ため、指導者は敢えて答えを与えず、審判員自らに考えさせて課題の改善へと導くことが目的であった。



桜島の噴火を背後に試合前のセレモニー

序盤は思うように進まず苦慮したが、日々改善を重ねた結果、短期間で目を見張る成長を見せた審判員の姿を目の当たりにし、また決勝戦担当レフェリーの最高のパフォーマンスには、感動の涙が自然と溢れ出た。そして大会に関わる全ての人々の努力は、「大会の成功」という形で実を結んだ。



参加ユース審判員とインストラクターでの集合写真

私が「非日常」で経験した現実は、自身のサッカーキャリアにおける大きな前進であり、また人は常に成長し得ると言うことを痛感した。

最後に、この貴重な機会を頂いた事と、また鹿児島で出会えた人々への感謝を忘れず、今後も指導者としても成長し微力ながらも日本サッカーの向上に携わりたいと願う。

■女子審判員観戦研修会の開催

(審判統括部会女子パートリーダー 宮崎 真理)

2020年1月19日に味の素フィールド西が丘で行われた全日本大学女子サッカー選手権大会 決勝戦 日本体育大学-早稲田大学の試合を用いて、観戦研修会を開催いたしました。日本サッカー協会からS1級審判インストラクターの浅井昭子氏を講師にお招きしました。参加審判員には試合前にプリントが配布され、下記のことを意識して観戦するように指導がありました。

「試合を観戦する上で考えて頂きたいこと」

- ①どのようなゲームになると予想しますか、②上記を踏まえて、どのようなレフェリング、チームワークにしたいと思いませんか、③どのような所にフォーカスをして見ますか、④ゲーム中に気になった判定・プレー、⑤審判団の良かったところはどんなところでしたか、各自メモを取りながら観戦し、試合後は会議室へ移動して、メモや試合映像を用いてディスカッションを行いました。資格級毎のグループで意見交換を行い、疑問点をその場で講師と一緒に検証することで、各審判員のスキルに対応した研修会となりました。



決勝戦の試合前のセレモニー

～女子審判員観戦研修会に参加して～ (サッカー3級審判員 長谷川 也須子 氏)

観戦後のディスカッションは参加者が6名と少なく、またインストラクターの浅井氏が生み出すオープンな雰囲気もあり、全員が意見を活発に出し合う密度の濃い時間になりました。特に実際に身体を用いて体感した



観戦後の座学研修時の様子

「正当なチャージとファウルの違い」や、気になった事象について試合の映像を見ながらディスカッションを行うことは非常に勉強になりました。どんな審判員でもミスをする、それを次に引きずらないように気持ちを切り替えながら試合に向き合い続けられるか、レフェリーチームでお互いをサポートしあえる関係を毎試合作り出すことができるか、私にとって難しい課題ですが、これから1試合ごとに意識しながら丁寧に取り組んでいきたいです。